

学校法人エリザベト音楽大学

2020(令和2)年度

2020(令和2)年4月1日から2021(令和3)年3月31日まで

事業報告書

1. 法人の概要

①建学の精神・教育理念・行動標語

【建学の精神】

大学の究極目的は、人間社会全体の形成であり、従って、個人の完成である。芸術は、人格の開発と表現のためにも、神との一致の道を切り開く人間相互の一致のための手段としても重要であることから、本大学は、人格完成を芸術、特に音楽の観点から強調するのである。

それゆえ、深く音楽芸術に関する理論および技能を教授研究するとともに、広く知識を授け、良識ある音楽家を育成することを旨とする。

1. 本大学は、カトリシズムの精神に基づいて創立され、かつそれを指導原理としている。
2. 本大学は、カトリック・イエズス会の教育方針に従い、一般教育科目および外国語科目にも力を注いでいる。
3. 本大学は、すべての人々は兄弟・姉妹であるという精神から、家族的雰囲気をもととする学生1人1人とのきずなを教育の礎としている。
4. 本大学は、一般音楽のほかに、グレゴリアン・チャント、ポリフォニーおよび現代宗教音楽等の教授・研究において他にみない特色を有している。
5. 本大学は、国際的な友好関係のもとに維持されており、日本古来の文化と西欧文明との融合をその究極の使命としている。
6. 本大学は、音楽芸術をとおして、神秘的観想の精神に達することを究極の教育理想としている。

【教育理念】

《 教養・実力・慈愛のある音楽家の育成 》

カトリシズム（普遍性）の精神に基づき、
幅広い教養・専門教育をとおして、
自分を高め、「他者のために生きる」人材を養成する。

音楽芸術および音楽教育に関する
理論、技能および実践の教授研究により、
真に芸術を愛し「美」の追求に真摯な人材を養成する。

平和を愛し、
地域社会および国際社会、とりわけアジア地域に
貢献する人材を養成する。

【行動標語】

音楽をとおして 私が変わり 世界を良くする人になる

②学校法人の沿革

年 月 日	沿 革
1947(昭和22)年9月	広島音楽教室開設(現エリザベト音楽大学付属音楽園)
1948(昭和23)年4月	県公認広島音楽学校開設
1950(昭和25)年1月	財団法人広島音楽学校に名称組織変更
1951(昭和26)年3月	学校法人広島芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年3月	学校法人エリザベト芸術学園に名称組織変更
1952(昭和27)年4月	エリザベト音楽短期大学(2年制)開設
1954(昭和29)年4月	宗教音楽専攻科(1年制)設置
1959(昭和34)年4月	エリザベト短期大学と改称(音楽科3年制、宗教科2年制)
1961(昭和36)年12月	ローマ教皇庁立宗教音楽院の姉妹校となる(BMS宗教音楽士の授与認可)
1963(昭和38)年4月	学校法人エリザベト音楽大学に改称、4年制のエリザベト音楽大学昇格開設、3年制短期大学と宗教科廃止
1967(昭和42)年4月	音楽学部音楽学科宗教音楽専修を宗教音楽学科として増設 (音楽学科・宗教音楽学科の2学科編制)
1976(昭和51)年4月	音楽学部声楽学科、器楽学科増設 (音楽学科・宗教音楽学科を加えて4学科編制)
1980(昭和55)年4月	音楽専攻科(1年制)開設
1990(平成2)年3月	音楽専攻科廃止
1990(平成2)年4月	大学院音楽研究科修士課程設置
1993(平成5)年4月	大学院音楽研究科音楽専攻博士後期課程設置
2001(平成13)年4月	音楽学部を改組、音楽文化学科、演奏学科開設
2003(平成15)年4月	音楽文化学科幼児音楽教育専修開設(幼稚園教職免許課程設置)
2006(平成18)年3月	音楽学科、宗教音楽学科、声楽学科、器楽学科の4学科を廃止
2011(平成23)年3月	日本高等教育評価機構から平成22年度大学機関別認証評価の認定
2018(平成30)年12月	新3号館竣工および既存施設(セシリアホール・1号館・本館・333教室等)改修完了
2018(平成30)年3月	日本高等教育評価機構から平成30年度大学機関別認証評価の認定
2018(平成30)年度	創立70周年記念事業コンサートシリーズ実施
2018(平成30)年8月	アセアック(ASEACCU:東南・東アジアカトリック大学連盟総会・学生会議)の実施
2019(令和元)年度	セシリアホール開館40周年コンサートシリーズ実施
2020(令和2)年度	セシリアホール空調設備改修

③設置学校の学部学科等学生定員・在籍学生数

当法人の設置する大学の学部学科等、学生数の状況は次のとおりです。

エリザベト音楽大学

音楽学部 (() 内は入学定員/収容定員)

音楽文化学科 (20人/80人)

演奏学科 (50人/230人)

合計 (70人/310人)

大学院音楽研究科 (() 内は入学定員/収容定員)

修士課程

音楽学専攻 (3人/6人)

宗教音楽学専攻 (2人/4人)

声楽専攻 (3人/6人)

器楽専攻 (12人/24人)

合計 (20人/40人)

博士後期課程

音楽専攻 (3人/9人)

2020年5月1日現在における在籍学生数は、次のとおりです。

音楽学部

(単位:人)

大学院音楽研究科

(単位:人)

	1年	2年	3年	4年	計
音楽文化学科	19	14	9	8	50
演奏学科	58	36	44	45	183
計	77	50	53	53	233

	1年	2年	3年	計
修士課程	6	23		29
博士後期課程	0	0	2	2
計	6	23	2	31

④教職員

2020年5月1日現在における教職員の状況は、次のとおりです。

学長	教授	准教授	専任講師	専任教員計	兼任講師	専任職員	兼任職員
1	13	8	8	30	106	21	5

平均年齢 専任教員: 51.0歳 専任職員: 54.1歳

⑤役員・評議員

2019年5月31日現在における役員・評議員の状況は、次のとおりです。

種別	寄附行為の規定(選任条項)	定員	現員	氏名(敬称略)
理事	(1)学長	1	1	川野祐二
	(2)評議員	2~3	2	中村英昭、木阪信子
	(3)学識経験者	1~2	1	山城宏樹
	(4)イエズス会日本管区長の推薦者	1	1	梶山義夫
	合計	5~7	5	

監事	第5条、第13条	2～3	3	三好彰、下崎邦明、遠藤秋実	
合計		2～3	3		
評議員	第17条 第2項 第21条	(1)法人の職員	2～3	3	馬場有里子、柴田美穂、福原之織
		(2)学校卒業生	2～3	2	永岡敏彦、森佳代子
		(3)理事互選	5～7	5	川野祐二、中村英昭、梶山義夫、山城宏樹 木阪信子
		(4)学識経験者	6～7	6	三島豊、市川太一、村上健、飯田美智子、 大方幸一郎、白浜満
合計		15～20	16		

2. 事業の概要

(1) 大学経営の取組み

① 建学の精神・教育理念の実現のために

2020年度は年間をとおして新型コロナウイルスの対応に苦慮いたしました。学内では感染予防に努めながら、6月以降は対面授業をほぼ通常どおり実施し、定期演奏会（10月）、クリスマスコンサート（12月）および卒業・修了関連行事も無事終えることができました。しかしながら、学生・教職員がアジア各地のイエズス会学校を視察し、演奏を行うなどの交流は実施出来ませんでした。

毎年4月に開催されるゴーセンス記念講演会は、コロナ禍のため中止としましたが、10月には、日本カトリック大学連盟加盟大学である清泉女子大学の山本達也教授により『AIと社会がつながる』を文科系学生と考える』のテーマで、オンライン研修会が開催され、専任教職員が受講しました。

② 学生数確保の取組み

コロナ禍での学生募集活動には多くの制限が余儀なくされ厳しい状況ではありましたが、進学ガイダンスにオンラインを取入れるなど学生数確保のための様々な取組みを実施しました。業者主催による高等学校内ガイダンスも、ほとんどが中止となりましたが、オープンキャンパスについては参加対象者を限定し完全予約制としました。（詳細は後述）

また、高校生向けツールとして、大学公式Instagramを開設し、次年度に向けては、高校生応援WEBサイトの開設を行いました。

③ 中長期計画に沿った将来計画の策定

施設・設備および財政に関する中長期計画の大幅な見直しは行いませんでしたが、施設・設備の計画的な更新のため、建設・設備の現状を把握するための建物設備簡易診断を実施しました。これからも施設・設備の経年変化（劣化）については、安心安全な施設・設備利用に必要な改修を着実に進めます。

西条キャンパスに関しては、利活用策の検討を継続して行います。

④国際交流について

2020年度は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響により、様々な活動、プログラムが延期、中止となりました。具体的には、学外における留学生支援イベント等での留学生の演奏活動、8月のASEACCU（東南・東アジアカトリック大学連盟）総会および学生会議（カンボジア・セント・ポール大学）への参加、四川音楽学院やセント・トマス大学でのマスタークラス、演奏会などです。

しかし、その一方でクリスマスチャリティーコンサートでの収益をザビエル・ラーニング・コミュニティ（タイ）、聖ジョアン・デ・ブリトー教育大学（東チモール）へ寄付する形で支援を実現しました。

(2) 教学について

①教学改革について

2022年度からの学部の教育課程全体の見直しに向けて会議を重ねて参りましたが、見直しを通して見えてきた現行のカリキュラムの様々な問題点も併せて検討を進めています。

コロナの影響で、本学では初めてとなる全学でのオンライン授業に取り組むためパソコンの購入、無線LANアクセスポイントの増設など環境整備に取り組みました。

授業支援システム「イーチ」のより一層の充実化を図るべく、新たにプログラム(クラスプロファイル、出欠管理)を導入しました。学生専用スマホアプリの運用を開始し、学生が「イーチ」にアクセスしやすい環境も定着してきました。

[音楽文化学科]

音楽文化学科では、学びを魅力あるものにする体制づくりを基幹目標とし、より高度かつ専門性の高い充実した教育達成のために、学科・専修の連携を密接にするというこれまでの目標からさらに一歩すすめて、専修横断的な学びを可能にするカリキュラム改革に着手しました。

2020年度も、学生の基礎能力（学習スキル、思考力）の向上および平均化を図るため、学科内横断科目として2年生を対象とした「基礎演習」を開講しました。また、学生の現状把握のフィードバック、個々の学生のスキルアップに重点を置くことにより、一定の成果が見られました。3、4年次の専門演習系科目についても、学生が抱える課題を解決し、より高度かつ柔軟な指導体制を構築するよう努めました。

音楽文化専修では、各領域の連携を深めると同時に、学生の希望調査にもとづく柔軟な個人指導体制を取入れ、領域を超えた指導体制づくりの試行を行いました。

幼児音楽教育専修では、音楽大学としての幼稚園免許課程にふさわしい音楽的能力と教育理論の融合を目指して、幼児期の音楽教育に必要な指導力の育成に取り組みました。具体的には、器楽合奏の編曲法や指揮法など保育現場で実践可能な音楽指導に加え、現代の幼児教育の方向性に沿った模擬保育の実践とその指導に注力しました。また、社会貢献活動として、幼児、親子を対象とした音楽を楽しむ場を提供しました。

音楽コミュニケーションデザイン専修は、音文専修との統合を終え、最後の卒業生を送出

しました。今後は音文専修の一領域として存続するだけでなく、これまでの専門領域での蓄積を活かして、広く学びを社会に還元する活動の促進に寄与していくための準備・検討を行いました。

[演奏学科]

演奏学科では年間を通して行われた議論を経て現行カリキュラムの見直しを行いました。今後の新カリキュラム作成で具体化されるべく引続き検討を進めてまいります。

特別講師を海外から招聘することにより行われる海外講座・公開レッスンはコロナの影響で残念ながら中止が相次ぎましたが、日本人講師や本学教員によるフォローを行うことにより学修への影響を抑えるよう努めました。

本学主催の演奏会では本年度も年間をとおして多くの教員が出演し、レベルの高い演奏が好評を博しました。また、オーケストラ・合唱での学生の演奏機会はコロナ渦においても維持され、授業あるいは特別練習において教員との共同作業による効果的な学習経験を数多くもつことができました。

[大学院]

コロナ禍の影響で教員の海外渡航、留学志願者の来日のいずれも不可能な状況が続いたことから、本年度は留学生入学試験を中止しました。また、前期に予定していた大学院公開講座についても、招聘予定の講師が来日できず、やむを得ず中止となりました。

なお、2021年度の留学生入試は、オンライン審査を取入れる形で実施する予定です。

魅力ある修士課程・博士後期課程に向けての検討は、学部におけるカリキュラム改訂の進捗状況も注視しつつ、現時点で可能な範囲で課題洗出しに着手しました。

②学生生活支援

学生の人間の成長と自立を促すため、学生にとって必要な時宜を得た内容を選び、合同オリエンテーションを実施しました。学生会主催行事は、大学祭、クリスマスパーティは中止となりました。

学生生活センター室長を中心に学生生活委員会を定期的に開催しています。とりわけ、配慮の必要な学生、生活面での悩みや課題を抱えた学生および障がいを抱えた学生については、教職員間で連携を密にして、状況の改善を図りました。

学力・演奏等の支援については、学習支援アシスタントからの個別指導に繋ぎ、理解力・技術力の向上を図っています。学生への連絡は、学生用ポータルサイト「イーチ」を活用し、生活面・行動面での自覚や自発的な行動を促しています。

経済的支援については、日本学生支援機構の給付奨学金、大学の入学金・授業料等減免の迅速な対応にあたりました。奨学金受給学生がより充実した学生生活を送れるよう、面談・個別指導を実施し、意識の向上を促しました。

また、これらの奨学金とは別にコロナ対応のための学生への修学支援策として次のとおり大学独自の奨学金を支給しました。

月	奨学金の内容	対象	金額
4月	家賃補助金	自宅外の下宿生及び寮生	下宿生：2万円 寮生：1万円
4月	アルバイト代減収への支援金	アルバイトの減収が確認された学生	1万円
5月	対面授業再開準備金支援金	全学生	2万円
12月	学期末試験準備支援奨学金	全学生	2万円
10月	インフルエンザ予防接種補助	インフルエンザ予防接種学生	3千円

〔就職・進学サポートについて〕

ア) 支援体制

キャリア支援室をはじめ、学長並びに教職員で組織されたキャリアサポート委員会、学生生活センター室長、ホームルーム担任、指導担当教員が連携してきめ細やかな対応をするとともに、教職に関しては、教養・教職主事が中心となり支援を行い、教員採用試験受検についても、関係する教員が計画的に実践的指導を行いました。

イ) 進路面談

3,4年生全員に対して「進路希望調査票」をもとに個人面接を行い、キャリア意識の醸成、就職、進学の意識確認を行いました。

ウ) 進路オリエンテーション、YouTube チャンネル（キャリア支援編）

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から進路オリエンテーションは中止といたしました。新たに、エリザベト音楽大学 YouTube チャンネル（キャリア支援編）を立上げ、卒業後、各分野で活躍する方々からのメッセージを動画でわかりやすく伝えることにしました。

エ) 就職状況

学部卒業生48人の内、就職希望者33人に対する就職内定者数は30人で就職内定率は90.9%でした。(2021年4月30日現在)

④演奏活動

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により中止となる演奏会がありましたが、定期演奏会およびクリスマスコンサートについては、大学の中心となる演奏会であることから、感染防止策を徹底し、演奏会の回数および入場者数を制限することにより、コロナ禍にあっても質の高い演奏会を実施することができました。

中止となったものも含め予定していた各演奏会の出演者等の詳細は次のとおりです。

日程	演奏会名・行事名・会場・出演者	備考
4/11(土)	第3回 ESpoir 新人演奏会(センリアホール) くらしき作陽大学で開催予定 → 分散開催 → 中止	中止

4/25(土)	「リコーダー&オルガンによるコンサート」(セシリアホール) リコーダー:鈴木俊哉 オルガン:佐々木悠、桑山彩子、福原之織	中止
6/20(土)	スピリチュアルコンサート 井上一清先生追悼コンサート 指揮:佐々木悠 井田勝大 エリザベト音楽大学卒業生合唱団、交響楽団	中止
9/10(木)	秋季大学院新人演奏会	該当者なし
10/17(土) 10/18(日)	第79回定期演奏会(セシリアホール) 指揮:太田弦 演奏:エリザベト音楽大学交響楽団 ピアノ:平原唯・水野恵	県外公演を中止し、広島公演を2回とする
11/6(金)	セシリアホール開館40周年 マーティン・ヒューズピアノリサイタル(セシリアホール) ピアノ:マーティン・ヒューズ(客員教授)	中止
12/5(土)	チャリティークリスマスコンサート (セシリアホール) 教員によるオルガン独奏(佐々木悠、桑山彩子) 混声合唱/佐藤眞「土の歌」 女声合唱/①1年生:Veni Emmanuel ②2年生: The First Noel ③声楽専攻女声: 新実徳英 Salve Regina(世界初演) 指揮:大谷研二・寺沢 希 ピアノ:中島詩織 占部久美子 演奏:エリザベト音楽大学合唱団	入場者数を制限するため、2回公演とする
3/4(木)	春季大学院新人演奏会(セシリアホール)	
3/7(日)	卒業研究発表・演奏会 音楽文化学科 (ザビエルホール) 卒業演奏会 演奏学科 (セシリアホール)	

⑤学生募集活動および広報活動について

〔学生募集について〕

コロナの影響で多くの制限を受けた中、「何が出来るのか」を考えながら学生募集活動に取り組みました。

前年度実施会場数を大幅に増やした進学ガイダンスは、さらに積極的に中四国・九州 17会場での実施を計画しましたが6会場は中止となり、その他の会場もコンサートを行わず、レッスンと個別相談を軸とする形で、場合によってはオンラインも活用しながら実施することとなりました。

受験生の情報収集にあたり、教員からの情報はプロスペクトに直結するものが多く、出前授業や学外での実技指導をとおして情報収集を図りたい半面、コロナ禍により高校訪問の機会が失われたため今年度の出前授業実施件数は、17件にとどまりました。

2020年度(2021年4月入学)の入試状況については、出願者68人、入学者57人で、出願者に占める入学者の割合は83.8%(前年度の割合は、91.5%)となりました。

今年度は新たな奨学金制度を設け、特に特待奨学生入学試験には16名の出願がありました。一方で、推薦入試については、出願者が減少しました(2019:28人、2020:13人)。

また、出願者に占める広島県出身の割合は下がりました。

これらのことを踏まえ、次年度への大きな課題として受けとめ、今後、本学の特色ある入試制度・奨学金制度を様々なチャンネルでプロモーションしてまいります。

〔広報活動について〕

大学案内や各種企画のパンフレットなど、高校生や高等学校の教諭、レスナーといったステークホルダーに読まれるツールは、読み手の目線に立って制作していくことに留意しました。「読みやすさ・親しみやすさ」を意識しながら、一方で大学のステータスや格調などを的確に伝えることができるよう心掛けました。また、大学ホームページや各種 SNS を利用した情報発信については更新頻度をあげるよう注意しながら、広告関連企業からのアドバイスなど参考に、高校生の使用率の高い SNS (インスタグラム) の公式サイトを設けました。コロナの収束が未だ見えてこない状況下、次年度に向けた情報発信・収集の強化に向け、SNS と連動した新たなウェブサイトの立上げを計画し、次年度から運用できるよう準備しました。高校生を中心とした若い世代への訴求力をさらに高めてまいります。

外部団体、レスナーサークル等との良好な関係継続にも留意し、ステークホルダーへの鮮度の高い情報発信・収集を心掛けてまいりましたが、多くの行事・イベントが中止となる中、どのように接触機会を確保していくべきか考えさせられました。既存の YouTube チャンネルの活用活性化、オンライン大学説明など、さらに工夫を凝らして次年度に臨みたいと思います。

⑥教職員研修および教職員評価について

教職員研修としては、教職員および非常勤教職員を対象に研修の機会を設けました。

4月に開催されるゴーセンス記念講演会は、コロナ禍のために中止としましたが、8月には、九州大学の深堀聰子教授により「教育方針・理念&3つのポリシーとカリキュラムの作成について」の研修会が開催され、専任教職員全員および非常勤教職員の希望者が受講しました。

また、10月には、日本カトリック大学連盟の加盟大学である清泉女子大学と連携して、清泉女子大学の2人の教授による「大学 IR(※)への要請と本学 IR 部門の対応」および『AI と社会がつながる』を文科系学生と考える」のテーマで、オンライン研修会が開催され、専任教職員が受講しました。(※) IR: Institutional Research の略、大学情報・機関調査

その他、教職員が参加した学外の研修会の多くはオンラインにより実施され、文部科学省の教職課程認定に係る説明会、GAKUEN システム支援研修会、日本私立大学協会および私学経営研究会の研修会他がありました。これらに加え FD 活動の一環として、9月16日から10月16日までの間、授業参観期間を設け、専任教職員および希望する非常勤教職員による授業参観および意見交換を行いました。

教職員評価制度は過年度の試行を経て、なおも細部における理解が深められていない点もあり、実施するに至りませんでした。

(3) 管理について

① 土地・施設設備の概要

本学の現有土地・施設設備の状況は次のとおりです。

建物（単位：㎡）

		新築年月日 (登記簿記載日)	教室	演習室 (レッスン 室)	実習室 (自習室・院 生研究室含 む)	研究室	図書室	管理用	寄宿舎	その他	合計
幟町学舎	旧神父館	1979/7/10 (2015/2/17)	53	14	33	17	0	291			408
	1号館	1979/7/10	810	261	167	21		1,370			2,629
	本館	1982/8/31	188	59		148		845			1,241
	2号館	1996/3/31	659	277	192	274	129	2,620			4,150
	3号館	2016/8/31 (2017/3/27)	291	133	62	54	266	1,028			1,834
	4号館	1989/8/31	276	18	377	18	188	762			1,639
小	計		2,276	763	832	531	583	6,916	0	0	11,901
西条学舎	1号館	1987/7/24	729					670			1,399
	2号館	1964/12/31								243	243
	3号館	1987/7/24		70				55			125
	4号館	1965/4/13								68	68
	5号館	1987/7/24	48					24			72
小	計		777	70	0	0	0	749	0	311	1,907
学生寮(橋本町)	鉄骨鉄筋コンクリート鉄筋コンクリート造ルーフイング葺9階建	1985/1/30			0				2,431		2,431
総合計			3,053	833	832	531	583	7,665	2,431	311	16,239

* 使用中の建物は、耐震性を満たしている。(西条学舎 2号館、4号館は現在使用していない建物)

土地（単位：㎡）

	校舎等	運動場	その他	寄宿舎	合計	備考
幟町学舎	4,890				4,890	うち借地 872
西条学舎	27,594	8,279			35,873	
学生寮				637	637	
合計	32,484	8,279	0	637	41,400	

② 施設設備の改修等

今年度は、年度当初に予定していたセシリアホールの空調設備（エアコン）工事を行いました。さらに4月7日から5月6日の間に広島県から緊急事態宣言が発令されたこともあり、急遽、オンライン授業のための環境設備を行いました。

また、女子学生寮セシリアホールについても新型コロナウイルスの感染症対策として、トイレの改修およびユニットシャワーの増設等を行いました。

コロナウイルス対策および経年変化（劣化）による施設設備の修繕・更新が中心となりましたが、ソフト・ハードの両面から、早急な対応に心掛け、安全・安心で快適な設備環境で教育・研究が行えるよう努めました。

2020年度に行った主な更新・改修工事関係は次のとおりです。

月	内 容
5月	セシリアホール空調改修工事
5月	1号館北側1階練習室空調機器更新工事
5月	教室（224, 506）モニター等設置工事
5月	オンライン授業用環境設備等工事
9月	図書館内書架転倒防止措置および照明設備工事
1,3月	エレベーター修繕工事
3月	学生寮トイレ改修およびユニットシャワー増設工事
3月	学生寮Wi-Fi環境追加設置工事
3月	学生寮居室の空調設備更新工事
3月	1号館から4号館への1階部分に係る防犯カメラの追加設置工事

③付属音楽園

付属事業である付属音楽園では、音楽園と大学教育の連携を深めるさまざまな取組みを実施しています。しかしながらコロナ禍の影響で、年間をとおして行われる行事の中には開催中止となったものもありました。こういった状況の中でも、感染症対策に十分留意しながら開催することができた、希望する園生全員が出演するコンサートや、募集活動（体験レッスン・見学会）により、在園生の魅力および満足度をあげる努力を行いました。新入園生数は、コロナ禍の影響もあり、前期は前年度と比較して減少となりましたが、後期は前年度と比較して微増となりました。引続き音楽園の諸活動を活性化させ、募集活動の充実を図ります。

エクステンションセンターにおいても、コロナ禍の影響で、年度計画にあげた講座の中には開催中止となったものがありました。また、レッスン指導の実施においても、中止期間が生じましたが、感染症対策に留意しながら日々のレッスンを実施いたしました。今後も、在学生および卒業生等学外者に対しても充実したプログラムの実施に努めます。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

資産の部合計は前年度末比 432 百万円増加して、15,297 百万円となりました。また、基本金は、第1号・第2号・第3号の基本金の組入れにより 313 百万円増加して、13,389 百万円となりました。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部合計は前年度末比 334 百万円増加して、14,822 百万円となりました。

② 収支計算書の状況

ア) 事業活動収支計算書

事業活動収入計が 1,366 百万円、事業活動支出計が 1,032 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額はプラス 334 百万円となりました。

基本金組入後の当年度収支差額は 21 百万円となり、前年度繰越収支差額 1,412 百万円と加算した翌年度繰越収支差額は 1,433 百万円となりました。

イ) 資金収支計算書

当年度の施設関係支出は、セシリアホールの空調設備更新工事等で 192 百万円となり、このうち 150 百万円を借入金で調達しました。設備関係支出は、教育研究用機器備品の充実などにより 64 百万円となりました。

ウ) 活動区分資金収支計算書

教育活動資金収支差額はマイナス 148 百万円、施設整備等活動収支差額はマイナス 357 百万円、その他活動資金収支差額はプラス 450 百万円となり、当年度支払資金は 55 百万円減少しました。これに前年度繰越支払資金 172 百万円を加算した翌年度繰越支払資金は 117 百万円となりました。

(2) 経年比較

① 貸借対照表

(単位：千円)

	2016 年度末	2017 年度末	2018 年度末	2019 年度末	2020 年度末
固定資産	13,158,719	13,238,443	13,791,584	13,984,981	14,294,839
流動資産	841,071	1,061,614	860,433	880,035	1,002,545
資産の部合計	13,999,790	14,300,057	14,652,017	14,865,016	15,297,384
固定負債	337,365	317,712	297,226	285,285	394,828
流動負債	82,477	79,780	74,109	91,990	80,322
負債の部合計	419,842	397,492	371,335	377,275	475,150
基本金	12,188,206	12,431,894	12,679,131	13,076,178	13,389,115
繰越収支差額	1,391,742	1,470,671	1,601,551	1,411,563	1,433,119
純資産の部合計	13,579,948	13,902,565	14,280,682	14,487,741	14,822,234
負債及び純資産の部合計	13,999,790	14,300,057	14,652,017	14,865,016	15,297,384

②収支計算書

ア)資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	483,203	453,317	461,602	413,988	441,625
手数料収入	7,079	7,287	5,843	7,425	4,622
寄付金収入	2,417	12,030	7,994	36,852	5,409
補助金収入	89,961	107,087	101,057	62,626	107,249
資産売却収入	725,319	807,856	1,457,992	891,407	1,634,862
付随事業・収益事業収入	39,222	41,267	38,701	34,744	23,306
受取利息・配当金収入	467,985	496,915	503,964	489,909	472,659
雑収入	36,253	17,358	64,757	12,745	6,869
借入金等収入	10,000	0	0	20,000	150,000
前受金収入	72,124	68,059	60,755	81,553	55,425
その他の収入	654,375	826,690	879,955	916,270	1,342,149
資金収入調整勘定	△ 95,306	△ 72,862	△ 107,331	△ 61,604	△ 82,494
前年度繰越支払資金	559,245	177,697	122,967	161,068	171,840
収入の部合計	3,051,877	2,942,701	3,598,256	3,066,983	4,333,521

支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費支出	487,255	474,707	534,014	455,350	447,955
教育研究経費支出	225,371	272,517	237,888	279,567	191,861
管理経費支出	59,933	68,851	77,627	73,280	70,254
借入金等利息支出	9	0	0	16	353
借入金等返済支出	10,000	0	0	20,000	12,497
施設関係支出	411,035	24,122	36,202	177,012	192,170
設備関係支出	64,799	29,720	26,851	26,448	64,351
資産運用支出	1,601,816	19,939,868	2,489,477	1,852,620	3,224,784
その他の支出	20,882	21,053	48,241	18,137	18,183
資金支出調整勘定	△ 6,920	△ 11,104	△ 13,112	△ 7,287	△ 5,684
翌年度繰越支払資金	177,697	122,967	161,068	171,840	116,797
支出の部合計	3,051,877	20,942,701	3,598,256	3,066,983	4,333,521

イ)活動区分資金収支計算書

(単位：千円)

科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	658,136	638,346	679,955	568,380	589,079
教育活動資金支出計	772,559	816,075	849,529	808,196	710,069
差引	△ 114,423	△ 177,729	△ 169,574	△ 239,816	△ 120,990
調整勘定等	△ 4,749	23,350	△ 46,697	59,086	△ 27,305
教育活動資金収支差額	△ 119,172	△ 154,379	△ 216,271	△ 180,730	△ 148,295
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	346,333	442,594	149,063	280,136	996,673
施設整備等活動資金支出計	1,058,401	288,732	718,062	603,562	1,352,371
差引	△ 712,068	153,862	△ 568,999	△ 323,426	△ 355,698
調整勘定等	0	0	4,774	△ 1,146	△ 1,146
施設整備等活動資金収支差額	△ 712,068	153,862	△ 564,225	△ 324,572	△ 356,844
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)	△ 831,240	△ 517	△ 780,496	△ 505,302	△ 505,139
その他活動による資金収支					
その他活動資金収入計	1,490,822	1,661,600	2,692,108	1,998,177	2,602,147
その他活動資金支出計	1,040,757	1,719,136	1,872,899	1,481,032	2,152,501
差引	450,065	△ 57,536	819,209	517,145	449,646
調整勘定等	△ 373	3,323	△ 612	△ 1,071	450
その他活動資金収支差額	449,692	△ 54,213	818,597	516,074	450,096
支払資金の増減額(小計＋その他の活動資金収支差額)	△ 381,548	△ 54,730	38,101	10,772	△ 55,043
前年度繰越支払資金	559,245	177,697	122,967	161,068	171,840
翌年度繰越支払資金	177,697	122,967	161,068	171,840	116,797

ウ) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

科目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	483,203	453,317	461,602	413,988	441,625
	手数料	7,079	7,287	5,843	7,425	4,622
	寄付金	3,786	12,030	8,389	36,852	5,409
	経常費等補助金	89,961	107,087	101,057	62,626	107,249
	付随事業収入	39,222	41,267	38,701	34,744	23,306
	雑収入	36,253	37,011	64,757	23,540	18,687
	教育活動収入計	659,504	657,999	680,349	579,175	600,898
	事業活動支出の部					
	人件費	464,382	474,707	509,900	455,349	447,955
	教育研究経費	328,397	396,963	364,665	413,280	346,150
	管理経費	73,201	82,580	92,129	87,996	85,124
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	865,980	954,250	966,694	956,625	879,229
	教育活動収支差額	△206,476	△296,251	△286,345	△377,450	△278,331
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	467,985	496,915	503,964	489,909	472,659
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	467,985	496,915	503,964	489,909	472,659
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	10	0	0	16	353
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	10	0	0	16	353
	教育活動外収支差額	467,975	496,915	503,964	489,893	472,306
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	108,152	149,112	236,946	146,895	293,043
	その他の特別収入	0	0	399	0	1
	特別収入計	108,152	149,112	237,345	146,895	293,044
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	2,085	26,428	76,847	52,279	152,525
	その他の特別支出	0	732	0	0	0
特別支出計	2,085	27,160	76,847	52,279	152,525	
特別収支差額	106,067	121,952	160,498	94,616	140,519	

基本金組入前当年度収支差額	367,566	322,616	378,117	207,059	334,493
基本金組入額合計	△ 403,719	△ 243,741	△ 247,238	△ 397,046	△ 312,937
当年度収支差額	△ 36,153	78,875	130,879	△ 189,987	21,556
前年度繰越収支差額	1,317,915	1,391,742	1,470,671	1,601,550	1,411,563
基本金取崩額	109,980	54	0	0	0
翌年度繰越収支差額	1,391,742	1,470,671	1,601,550	1,411,563	1,433,119

(参考)

事業活動収入計	1,235,641	1,304,026	1,421,658	1,215,979	1,366,601
事業活動支出計	868,075	981,410	1,043,541	1,008,920	1,032,107

(3) 主な財務比率比較

比率名	算式	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額	29.75%	24.74%	26.60%	17.03%	24.48%
	事業活動収入計					
基本金組入後収支比率	事業活動支出	104.35%	92.56%	88.86%	123.20%	97.95%
	事業活動収入計-基本金組入額					
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	42.86%	39.25%	38.98%	38.72%	41.14%
	経常収入					
人件費比率	人件費	41.19%	41.10%	43.05%	42.59%	41.73%
	経常収入					
教育研究経費比率	教育研究経費	29.13%	34.37%	30.79%	38.66%	32.24%
	経常収入					
管理経費比率	管理経費	6.49%	7.15%	7.78%	8.23%	7.93%
	経常収入					
流動比率	流動資産	1019.76%	1330.68%	1161.04%	956.66%	1248.16%
	流動負債					
負債比率	総負債	3.09%	2.86%	2.60%	2.60%	3.21%
	純資産					
純資産構成比率	純資産	97.00%	97.22%	97.47%	97.46%	96.89%
	負債+純資産					
基本金比率	基本金	100%	100%	99.96%	99.97%	98.97%
	基本金要組入額					
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額	△31.31%	△45.02%	△42.09%	△65.17%	△46.32%
	教育活動資金収入計					

(注)「経常収入」=教育活動収入計+教育活動外収入計

(4) その他

①有価証券の状況

区分	銘柄 数量	帳簿価格 (千円)	時価 (千円)	表示科目	摘要
債券	外国債券 86 口	8,314,438	8,828,568	第3号基本金引当特定資産ほか	
	外国債券 8 口	623,373	713,074	有価証券	翌年度満期
	円貨債券 0 口	0	0		
株式	株式 25 銘柄	1,559,122	2,639,363	第3号基本金引当特定資産ほか	
投資信託	なし				
貸付信託	なし				
その他	REIT 11 銘柄	995,597	1,264,779	減価償却引当特定資産ほか	
	外貨 MMF ほか	264,259	277,843	有価証券ほか	
計		11,756,789	13,723,627		

②借入金の状況

借入金の種類	借入先	金額(千円)	摘要
長期借入金	市中金融機関	122,507	返済期限：令和12年5月
短期借入金	市中金融機関	14,996	
	(うち返済期間が1年以内の 長期借入金)	〃	(14,996)
計		137,503	

③学校債の状況

該当なし

④寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額(千円)	摘要
75周年記念募金	同窓会	904	
奨学資金ほか	後援会ほか	4,460	
一般寄付	篤志家	45	

⑤補助金の状況

私立大学等経常費等補助金	一般補助	86,017 千円(昨年比 148%)
	特別補助	4,190 千円(昨年比 126%)
	授業料等減免費交付金	16,611 千円(昨年比 ---%)
市町村補助金		31 千円(昨年比 5%)

⑥収益事業の状況

該当なし

⑦関連当事者との取引状況

該当なし

以上、法人の概要、事業および財務の概要について報告いたしましたが、新型コロナウイルス感染拡大が続く中で、本学にとってまだまだ厳しい状況が続くことが予想されます。今後も、大学教育研究の充実、経営基盤の確立に向けて、教職員一丸となり、日々努力してまいります。皆様のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。